



学生たちによる子どもたちの学習支援「環大スタディ」始まる!!

2016年1月13日より、毎週水曜日午後6時半から8時まで、本学まちなかキャンパスにおいて、環大スタディ(略称カンスタ)と称した新たな取組が始まりました。これは、文部科学省が進めている地域創生推進事業(COC事業)に、本学の「麒麟の知(地)による学生教育プログラム」が採択されたことを契機に、現在、教職課程を履修している4年生たち自身が地域に貢献することと、自らの教育実践力を高めるために、企画した取組です。

鳥取県・鳥取市の両教育委員会、周辺の中学校、高等学校の理解と協力も得て、自作のポスターやチラシを配布し、子どもたちに呼びかけて始まったこの取組には、毎回学生約10名がボランティアとして参加、毎週やってくる周辺地域の中学生や高校生が持参する宿題や課題等のアドバイスに、マンツーマンで取り組んでいます。中には、進路の相談や部活動のことなど、年齢が近いだけに学生たちに様々な相談をする子どもたちもおり、終始、静かに落ち着いて学習しながらも温かい雰囲気になった場となっています。

参加学生からは、「鳥取でお世話になった恩返しになれば」という言葉や「答えではなくヒントを出していく、改めて教えるって難しいなあ」といった言葉が出ていますし、一方、毎週やってくる中学生からは、「話しやすい相談しやすい」という感想も聞いています。



2016年度 公立鳥取環境大学 学部・大学院入学式を挙

4月4日(月)、とりぎん文化会館梨花ホールにおいて、入学式を挙行了しました。学部生

292名(環境学部142名(うち3年次編入学1名)、経営学部150名)、大学院生3名が入学しました。

式典では、学部新入生代表の近本美乃里さんと、大学院新入生代表の荻原悠季さんがそれぞれ入学生宣誓を行い、近本さんは「自然豊かな環境で様々な体験を通し、生き物の生態や地域の特色を直接感じることでより深い知識を身につけるとともに、自然とどのように向き合い、資源をどのように活用すべきかを学び、大学の基本理念である「人と社会と自然との共生」を実現するため、研究していきたい」と、今後の意気込みを述べました。

また、歓迎セレモニーでは、和太鼓部による和太鼓演奏が行われ、力強く勇壮な演技が披露されました。



研究紹介:世界初、砂に潜る小さなイシサンゴの発見 — 海洋生物学における新たな知見 — (徳田講師)

本学環境学部の徳田悠希講師は、千徳明日香博士(京都大学瀬戸臨海実験所)、江崎洋一教授(大阪市立大学大学院)との共同研究で、日本近海の海底の砂中に自ら潜り生活する、移動するイシサンゴ(タマサンゴ)を発見しました(図1参照)。従来、イシサンゴ類でこのような生活様式は知られておらず、世界で初めての発見です。さらに、このような砂中に潜って生活するサンゴは、約8000万年前の

後期白亜紀にすでに地球上に登場していたことも明らかとなりました。

この研究は、Nature Publishing Groupが発行する「Scientific Reports」において、論文が掲載されています。

【研究論文名】

Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago (8000万年前から海底に出現していた潜行性イシサンゴ)

【著者】

千徳明日香(京都大学瀬戸臨海実験所)、徳田悠希(公立鳥取環境大学・鳥取県立博物館)、江崎洋一(大阪市立大学大学院)

【公表雑誌】

Scientific Reports (Nature Publishing Group)

発表論文URL: <http://www.nature.com/articles/srep24355>

【研究成果のポイント】

○タマサンゴの飼育実験を行い、世界で初めて、砂の中に自ら潜り生活するイシサンゴを発見し、沖合の砂泥底に生息するイシサンゴの生活様式が明らかとなった。

○砂中への潜行、姿勢の回復、砂による埋没からの脱出は、軟体部(ポリプ)が膨張収縮を繰り返すことで生じる。

○このような砂の中へ潜るイシサンゴは、白亜紀後期の約8000万年前にすでに地球上に登場し、その後、多様化した。



※図1:砂を掘って潜るタマサンゴ

岩美町と地域活性化を目的とした協定を締結 ～実践的な教育により地域活性化に貢献～

5月26日(木)、本学と岩美町は岩美町役場において連携協力に関する協定調印式を行いました。これは、両者がこれまで積み重ねてきた連携実績と信頼関係をベースに、教員の



専門知識、学生の知的好奇心や活力等を源とする教育・研究活動等を加速させることによる岩美町の地域活性化を目的としています。

これまで本学では、ジオパークや漁業関係などの岩美町の地域資源を題材とする研究・教育活動に取り組んできたほか、外国人スタッフが岩美町に出張して行う英語村、教員による講習会の開催など地域住民との交流も盛んに行っています。

また、本学は、昨年10月に国から「地(知)の拠点大学」(COC事業)の認定を受け、今年4月からはこれを一層推進するため、学生がより地域と深い関わりを持つことが出来るようなカリキュラム改革を実施していますが、今回の協定締結は、これら教育活動の幅を広げることにもなります。さらに、本学の地域連携機関として設置している「とっとり麒麟地域活性化プラットフォーム」の活動の成果の一つにも挙げられます。

調印式では、高橋学長から「岩美町の環境は教育研究のフィールドとして最適」、榎本岩美町長から「学生には地元の人が気づかないような提案してほしい」という期待のコメントがあったほか、立会人として出席された林鳥取県副知事からは「これまで教員が個々に行っていた活動が組織同士のつながりとして協定になったことは意義深い」という発言がありました。

調印式後には、本学の学生2チームが岩美町に関連のあるテーマで発表を行いました。吉永ゼミからは漁村の現状への問題意識から魚食普及にかかわるテレビ番組制作を通じて取り組んでいることを、泉ゼミからはトワイライト瑞風の運行を契機に、山陰を盛り上げるための企画をゴミ拾いイベントと関連させて取り

組んでいることを紹介し、約30名の出席者は熱心に聴き入っていました。



環境学部環境学科 小林朋道教授 “先生シリーズ” 最新刊のお知らせ

本学 環境学部環境学科小林朋道教授が『先生、インギンチャクが腹痛を起こしています! [鳥取環境大学]の森の人間動物行動学』を上梓しました。

築地書館刊行の大好評“先生シリーズ”第10作目です。

巻頭では、小林ゼミの部屋で起こった動物たちの珍事件—ゼミ室で飼われている爬虫類(ヘビ)が逃げ出し魚類(コイ)と対面、そして・・・!!他にも南米産の齧歯類(テグー)、モグラの仲間(ヒミズ)など個性豊かな動物たちが巻き起こす事件の数々がユーモラスな語り口で掲載されています。

舞台は、海産動物たちが驚くべき行動を見せる水槽物語、“芦津の森”でニホンモモンガを中心として展開する研究、トチノキとヤギをめぐる物語など、動物博士でなければ遭遇できないような動物たちの生態が生き生きと描かれています。

ついに10作目に突入した本作。小林教授と動物たちをめぐるほのぼのどたばた珍騒動からますます目が離せません。ぜひご覧ください。



オープンキャンパス2016を開催

8月6日(土)、7日(日)、オープンキャンパスを開催しました。連日の猛暑の中、県内外から多くの高校生、保護者、高校教員の方など合わせて85人が来場されました。当日は環境学部・経営学部の研究室公開、学部毎の「模擬授業」に多くの来場者が参加し、本学の教育・研究内容を理解していただきました。

また、学生スタッフによるキャンパス見学ツアーでは、9月に完成予定の「実験研究棟」を学外の方へ初めて公開し、教育・研究環境のさらなる充実に向けた取り組みをご覧いただきました。さらに、教職員、オープンキャンパススタッフやクラブ・サークルの学生達、国際色豊かな英語村スタッフとの交流も楽しみ、本学の魅力を十分感じていただけたと思います。



学生表彰 表彰式を開催

課外活動において顕著な成績や業績を収めた学生へ、表彰状と副賞を授与しました(2016年2月9日~5月31日申請分)。

日商簿記検定 2級

五孝 圭佑

第49回 中国学生弓道競技大会 男子個人 第3位

藤原 涉

ファイナンシャルプランナー 2級

内田 竣介

eco検定

23名(内訳:環境学部 14名・経営学部9名)

TOEIC 公開テスト

葛野 瑠依 / 妹尾 駿作 / 五孝 圭佑

TOEIC IP

松浦 生

